

日本リメディアル教育学会第3回全国大会

2007年9月1日

英語を学習する意味が見いだせない学 習者のための自律学習の開発方法(2) ー学習マップの導入過程の効果と問題点ー

京都ノートルダム女子大学	東郷多津
NPO法人学習開発研究所	望月紫帆
武庫川女子大学	高橋朋子
神戸親和女子大学	中植正剛
環太平洋大学	山崎瞳

アウトライン

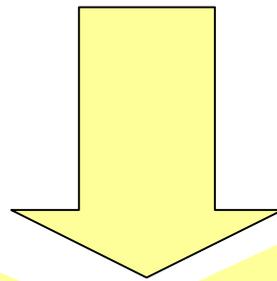
- 研究の背景と目的
- 授業開発
- 学習マップ
 - ・対象
 - ・学習マップの目的
 - ・学習マップの効果と問題点(学習者の事例から)
- 結論
- 今後の課題

大学の英語教育

- 英語教育の必要性の高まり VS 英語の授業に対する疑問視
- 実態に合わせた英語教育 VS 従来の英語教育
- ESP VS EGP

私立大学の実情

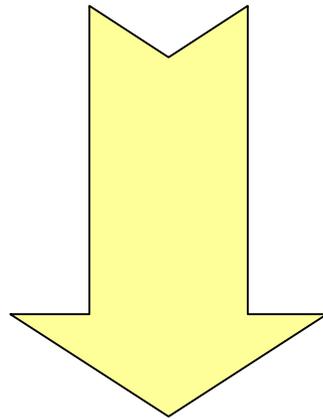
- 学生の確保
- 多様化する入試によって多様化する学生の存在
- 必修としての英語科目の存在
- 学習の質保証と少人数制クラスのバランス



英語を学習する意味が見いだせない
学習者への対応

従来の授業開発

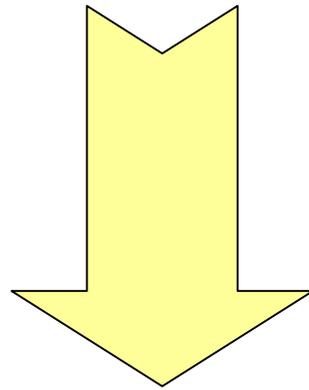
クラスの中で最低限の基礎知識がある、英語を学習する意味を認識している学生



学習理論や方法論を適用した授業

今後の授業開発

志願者前入時代における学習する
意味を見いだせない、基礎知識の
ない学生



多様な学生のいる授業に適した
教育技術の開発 (西之園他 2006)

新たな授業開発

英語を学習する意味が見いだせない学習者が自律的に学ぶことができる授業を目指し、プロジェクトチームで協同開発する

プロジェクトメンバー:

NPO法人学習開発研究所(代表 西之園晴夫)の研究グループの有志5名。高橋朋子(武庫川女子大学助手)、東郷多津(京都ノートルダム女子大学講師)、中植正剛(神戸親和女子大学講師)、望月紫帆(NPO法人学習開発研究所所員)、山崎瞳(環太平洋大学助教)

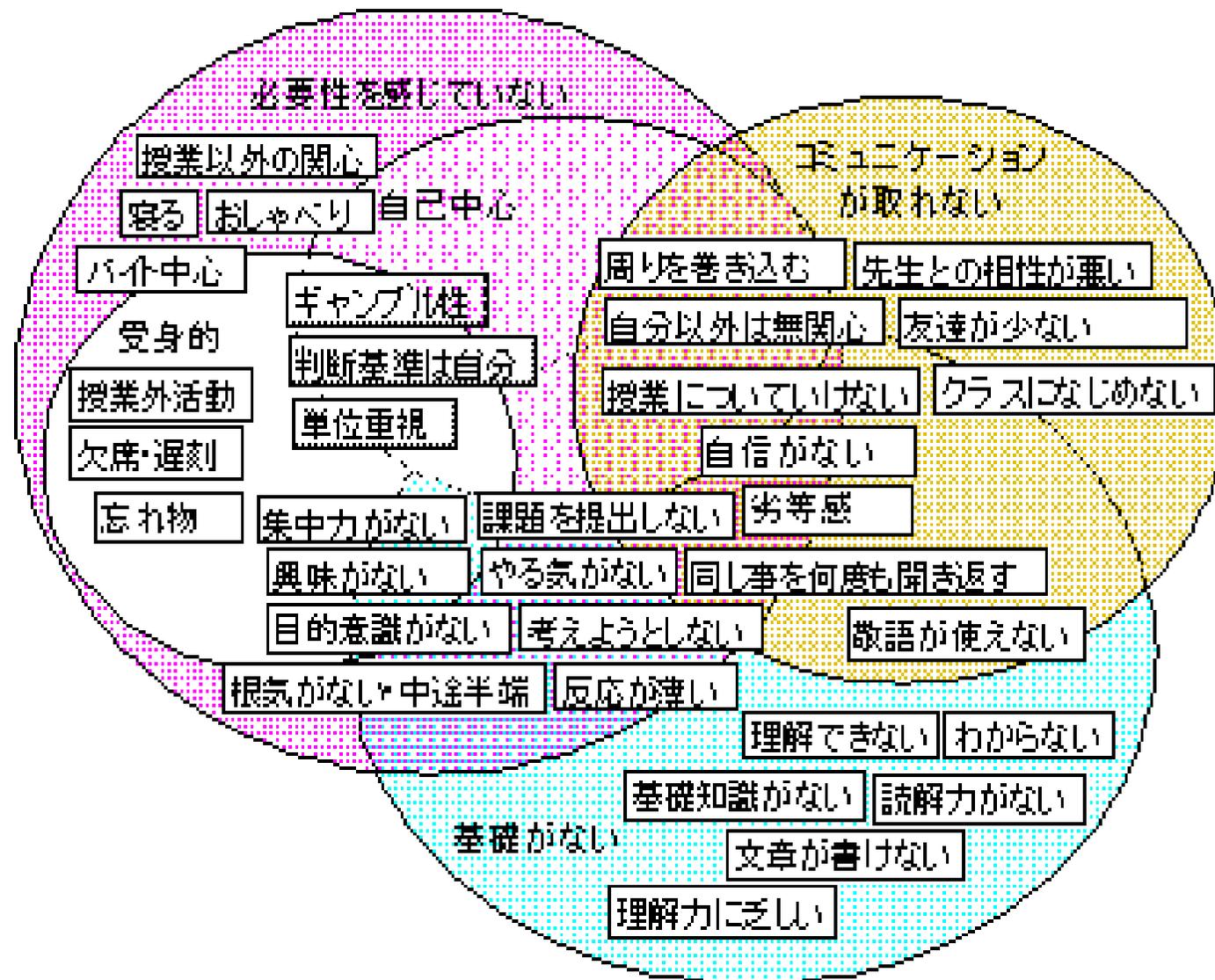
これまでの発表

2007年6月中部地区英語教育学会三重大会

設計、授業記録、記録の考察や
分析の概要

再履修生のイメージ

図：高橋朋子



健康管理メタファー

イラスト: 高橋朋子

後期より開講	Chapter9 ★★★★ (イリアン)	必修						chapter9までの 応用問題		
	Chapter8 ★★★★ (イリアン)	必修						条件クリアした人 がチャレンジできる		
	Chapter7 ★★★ (中華)	必修						chapter7までの 応用問題		
	Chapter6 ★★★ (中華)	必修						条件クリアした人 がチャレンジできる		
	Chapter5 ★★★ (中華)	必修								
前期より開講	Chapter4 ★★ (和食)	必修		8P 	13P 	10P 	23P 	chapter4までの 応用問題 条件クリアした人 がチャレンジできる 最高23P	RANK4 ☆☆☆☆ 5P 	
	Chapter3 ★★ (和食)	必修		8P 	13P 	10P 	20P 		RANK3 ☆☆☆ 4P 	
	Chapter2 ★ (洋食)	必修		5P 		10P 	17P 		RANK2 ☆☆ 3P 	
	Chapter1 ★ (洋食)	必修		5P 	10P 		15P 		RANK1 ☆ 2P 	
chapter ランク		Unit A	Unit B	Unit C	Unit D	Unit E	アタックチャンス	オマケ		
	Unit内容	単語	文法1	文法2	創造	総合問題	自己表現			
学習形態		チーム学習					個人学習			

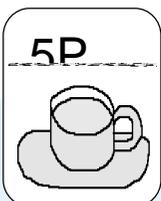
作成した学資材など

- 「腕試しテスト」
- 「診断テスト」とその解答
- 「学習マップ」
- 「学習計画シート」
- 「査定シート」
- 「メニューシール」

「学習マップ」とは

- 教科書の各チャプターを内容ごとにユニット分けしたもの
- 各チャプターのユニットごとに学習目標があり、その目標を達成するためにユニットごとの学習活動を示した一覧表から構成されたもの
- 学生が履修の目安とするもの
- 「メニューシール」を貼ることで獲得ユニットが確認できるもの

「学習マップ」

Chapter 1	Unit A 単語	POINT	page	Getting Ready to Write	MAKE A COVER FOR YOUR PORTFOLIO A&B 例にならい, 自分のPORTFOLIOを作成する
			2-4 10	<ul style="list-style-type: none"> ・MAKE A COVER FOR YOUR PORTFOLIO A&B, C&D ・FILLING OUT A FORM パートナーと協力しながらChaper1で使用する単語を準備することができる	
	Unit B 文法1	POINT	page	Develop Your Writing Skills 1	WHAT IS A SENTENCE 例題にならい, 問いに答える (S下線, V丸印, C/O四角)
			2-4	<ul style="list-style-type: none"> ・WHAT IS A SENTENCE? ・PREWRITING A ・CAPITAL LETTERS 大文字で表す部分がわかる 主語, 動詞, 目的語/補語に気をつけて文を書くことができる	
	Unit C 文法2	POINT	page	Develop Your Writing Skills 2	WHAT IS A PARAGRAPH A&B Aの間違いをパートナーと考え, 正しい文章をBに書く
			5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・WHAT IS A PARAGRAPH? A&B ・WRITING ・REVISING A&B パラグラフのルールが判断できる パラグラフを書くことができる パラグラフを見直すポイントがわかる	

単位取得者Aの事例

[授業の様子と感想](4月25日のT1授業日誌より抜粋)
Aさんはお菓子も食べながら、飲み物ものみながら計画や診断テストをしていたようです。まさに「スタバ作戦」の狙い通り！という感じ。

[授業の様子](7月4日のT1授業日誌より抜粋)

9:58 診断テストの確認終了

T2がAさんに計画と診断が合っているかを確認する。...どの部分を選んでいるかの話になり、A:「文章考えるの苦手」「日本語考えるのが」T1:「英語で考えたら？」A:「いやその前にアイデアを考えるのがいや」T2:「わかる...」だから考えなくてもいい問題を選んでいるという話になり、T1:「だって目的はなんやった？」A:「そう、単位とること」T2:「数はこなさなきゃならないんだ。そういうやり方もあるね...」

Aの課題

[授業の様子](7月4日のT1授業日誌より抜粋)

9:58 診断テストの確認終了

T2がAさんに計画と診断が合っているかを確認する。...どの部分を選んでいるかの話になり、A:「文章考えるのが苦手」「日本語考えるのが」T1:「英語で考えたら？」A:「いやその前にアイデアを考えるのがいや」T2:「わかる...」だから考えなくてもいい問題を選んでいるという話になり、T1:「だって目的はなんやった？」A:「そう、単位とること」T2:「数はこなさなきゃならないんだ。そういうやり方もあるね...」

【ポイント】(7月4日のT2観察日誌より抜粋)

「健康管理」というメタファーから言うと、
「自分の健康維持のために必要なもの」というよりも、「食べるのが楽なもの、あるいはすぐ食べることができるもの」を重視する場合もある。その場合は「writing」としてのクオリティは一切追求されない。
ただ、今回は「正当な理由で単位を与える」ということが目的なので、それもOKということになる。

単位取得者Cの事例

[授業の様子] (7月18日のT2観察日誌より抜粋)

10:26 学習計画のための用紙を渡す

C 計画がうまくたてられない (およそ60ポイントに近づけないプランをたてる)

T2 「ゆっくり考えて後ほどメールで送って」といいメールアドレスを渡す。

[Cさんとの会話ポイント箇条書き]

- ・学校に来るとき来ないときがある
- ・朝は起きれない(ほかの人も同様?少なくともAさんは同様)
- ・学校で勉強しても家で勉強しても同じ
- ・あまり勉強がはかどらない
- ・テストが嫌い
- ・テストがあるほかの授業に比べれば、この授業のスタイルは自分に合っている
- ・パソコンは家にある。でも毎日使うわけではない。携帯はよく使う。
- ・もうこの授業は通らないと思っていた (計画段階でさほど焦りが感じられなかったのもそのせいかな?)

単位取得者Cの事例

時間	検索用単語	行動（学習者）
11:22	ポイントマップ	ポイントマップと腕試しテストを手にする
11:25	腕試しテスト	腕試しテストを見る
11:35	ポイントマップ	腕試しテストを置いてポイントマップを見る
11:38	ポイントマップ	ポイントマップ1枚目をめくる
11:40	ポイントマップ	ポイントマップ2枚目を見る
11:45	ポイントマップ	ポイントマップ2枚目をめくって3枚目をみる
:		
12:47	ポイントマップ	左手に持っているポイントマップに視線を移す
12:53	ポイントマップ	左手のポイントマップを左斜め上にあげて、テキスト右側に視線を移す
12:57	ポイントマップ	左手のポイントマップに再び視線を移す
13:11	ポイントマップ	左手にポイントマップを構えたままテキストに視線を落とす
:		
13:53	ポイントマップ	ポイントマップを机左上に置いて、テキスト右側に英文を記入する

Cの課題

[授業の様子] (7月18日のT2観察日誌より抜粋)

[Cさんとの会話ポイント箇条書き]

- ・ 学校に来るとき来ないときがある
- ・ 朝は起きれない(ほかの人も同様?少なくともAさんは同様)
- ・ 学校で勉強しても家で勉強しても同じ
- ・ あまり勉強がはかどらない
- ・ テストが嫌い
- ・ テストがあるほかの授業に比べれば、この授業のスタイルは自分に合っている
- ・ パソコンは家にある。でも毎日使うわけではない。携帯はよく使う。
- ・ もうこの授業は通らないと思っていた (計画段階でさほど焦りが感じられなかったのもそのせいかな?)

[授業の様子と感想] (7月18日のT1授業日誌より抜粋)

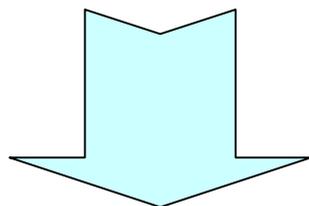
Akaneさんを見ているとやはり「パートナーが必要である」ことがかなりネックになっているように思う。次のところでも「パートナー」がいる所はどうしたらいいか聞いていた。(私(T1)かT2がいるから自分で確かめたら声かけて)と答えた。

最終結果

- Aさん:《79ppt.》Chap1から始める+グルメレポーターになる(全メニュー制覇)
- Cさん:《60ppt.》Chap1から始める+グルメレポーターになる(全メニュー制覇)

結論

- 単位取得者のうち開発者、学生双方の目的が合致した事例は1例だった。
- 初のポイント獲得者が6度目の授業まで出なかった。
- 「学習計画シート」にはしたがっていたが、学習マップは教科書を計画的に進める目安にならなかった。



英語を学習する意味を見いだすのは
困難である

今後の課題

- 学生の実態にみあった学習資材、あるいは学習への仕掛けを考案する。
- 「単位取得」という目的にかなった学習プロセスと学習資材を開発する。
- 「健康管理」をメタファーにするならば、そこに学習の質を含めた学習を開発しなければならない。

参考文献

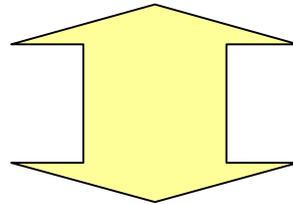
- 東郷多津(2007)「英語を学習する意味が見いだせない学習者のための自律学習の開発方法(1)－再履修生対象のWriting classでの適用－」中部地区英語教育学会三重大会
- 西之園晴夫、宮田仁、望月紫帆(2006)「教育実践の研究手法としての教育技術学と組織シンボリズム」教育実践学研究 第8巻第1号、日本教育実践学会
- 西之園晴夫、宮寺晃夫編著(2005)『佛教大学教育叢書 教育の方法と技術』ミネルヴァ書房
- ウヴェ・フリック(小田博志、山本則子、春日常、宮地尚子訳)(2002)『質的分析入門－〈人間科学〉のための方法論』春秋社
- 高橋順一、渡辺文夫、大淵憲一編(1999)『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシ出版西之園晴夫(編著)2007『学習ガイドブック 教育の技術と方法－チームによる問題解決のために－』ミネルヴァ書房.

単位未取得者

- Dさん:《71ppt.》Chap3から始める＋バランス重視の健康管理(1チャプター制覇)
- Eさん:《78ppt.》Chap2から始める＋バランス重視の健康管理(1チャプター制覇)
- Fさん:《65ppt.》Chap3から始める＋バランス重視の健康管理(1チャプター制覇)
- Gさん:《80ppt.》Chap2から始める＋食べ比べ(各チャプターのメニュー)

授業担当者の希望と現実

- 「できるんだ」という自信をつけてほしい
- できるひとはもっと高いレベルに挑戦してほしい
- 自分でバランスを考えて取り組めるようになってほしい



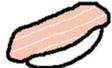
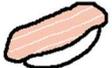
正答のある文法問題や簡単な問題を選ぶ

開発手順

1. ブレーンストーミングをしながら再履修生の特徴を仮定する
2. 授業全体のメタファーを決定する
3. 教材の作成を分担する
4. 授業を行う
5. ビデオを分析する
6. データを解釈する
7. 指導法にフィードバックさせる

回転寿司メタファー

イラスト: 高橋朋子

開始時期			チーム学習				ボーナスチャレンジ 個人でトライ
7月 スタート	chapter9	イクラ A	150円	150円	150円	150円	満点250P
	chapter8	ウニ	150円	150円	150円	150円	満点250P
5月 スタート	chapter7	タイ	120円	120円	120円	120円	満点200P
	chapter6	マグロ		120円	120円	120円	満点180P
	chapter5	ハマチ	120円	120円	120円	120円	満点150P
	chapter4	サーモン		120円			満点120P
4月 スタート	chapter3	ツナ		80円			満点100P
	chapter2	タマゴ				80円	満点80P
	chapter1	エビ		80円			満点50P
			unit1	unit2	unit3	unit4	unit5
			文法問題	コミュニケーション	文章表現1	文章表現2	応用問題(自己表現)

授業法

- ★グループ、ペア活動を取り入れるが基本的には個々の学生による自律学習を採用する
- 単位取得を目指した「ガイド的教材」の作成
- 授業初回時に学習を自己管理できるような資料を提示
- アイスブレイキングに初回2回を充当
- セルフサービス型コーヒーショップでの英語学習的な雰囲気を提供